

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：000700) 主題C-基礎科目「地域理解」 Regional studies (Basic knowledge) 地域と香川大学Ⅰ Study on Areas we live in and Kagawa University	科目区分 主題科目	時間割 2Q時間外	対象年次及び学科 1～3全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 清國 祐二, 林 敏浩 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義(e-Learning視聴)90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 本授業は「地域の中にある香川大学」と「地域理解」の二部構成となる。前者は香川大学の成り立ちや変遷、特色のある研究や教育、社会貢献活動について学ぶ。後者は本学が位置する地域（主に香川）の特色、歴史や文化、地勢、産業、観光等について幅広く学ぶ。			
授業の目的 地域社会について理解を深め（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、地域に愛着を持つとともに、地域に根ざした学生中心の大学を標榜する本学の精神を学ぶことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 本学の成り立ちや歴史、輩出された人材、特色ある研究やその成果、社会貢献活動等について理解することで、本学への帰属意識を高めることができる。 2. 本学の位置する地域（主に香川）のよさや魅力を認識するとともに、それらの担い手や仕掛け人等の存在や活動を理解することができる。 3. 地域（主に香川）の問題や課題を認識するとともに、それらの解決に向けて取り組む人びとや組織・団体の存在に気付くことができる。			
成績評価の方法と基準 成績評価は合格・不合格の認定形式で行う。（各回の授業視聴後に、知識や理解度を測定するための選択式の問題を出す。最終レポートは、指定した数個のキーワードを生かして記述し、授業のねらいの浸透を図る。）			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
オリエンテーション回：本授業のねらい、概要（内容紹介）、受講方法、評価等を確認する。 第1回 地域の中にある香川大学①：本学の成り立ちや変遷、歴史を多面的に解説する。学長および教育担当理事が、本学の経営理念や存在意義、本学の目指す大学像や学生教育等に関してメッセージを送る。 第2回 地域の中にある香川大学②：本学の研究・教育・社会貢献の特色。本学のプロモーションビデオ等も活用し、本学の魅力をソフトに伝える。それを受けて、現学部長が学部紹介を地域貢献（研究面での貢献も含む）と人材育成の文脈を中心にその魅力と特色を紹介する。 第3回 地域理解①：地域（主に香川）の特色を紹介。香川県や県内市町あるいはその近隣の地勢や歴史、文化芸術、伝統芸能・行事、伝統産業・遺産、人物等について触れる。 第4回 地域理解②：地域（主に香川）の産業や資源に関する特色を紹介する。香川県および市町のプロモーションビデオ等も活用しつつ、香川県についての理解を深める。 第5回 地域理解③：地域（主に香川）で働く意識の醸成。産業振興を担当する行政職員へのインタビューから始まり、香川県内の産業や就業状況についての課題や展望について理解する。また、本学学生の近年の就職状況や就職支援について、COC+関係者やキャリア支援センターより解説する。 第6回 地域理解④：地域（主に香川）での学修（フィールドワーク型授業）への誘い。瀬戸内地域活性化プロジェクトやインターンシップの取組を中心に、地域で学ぶことの意義や魅力について紹介する。街活性化や産業振興、観光振興、定住促進等のテーマごとに、学生のセンスを生かした主体的取組を中心とする。 第7回 地域理解⑤：地域（主に香川）への責任を果たせる人となるために。本学学生には地域の責任ある担い手として、職業人・社会人・地域人として、自ら進んで役割を果たしていく気概が求められる。本学が取り組んでいる地域貢献活動の代表的なものとして、防災、里山・里海、水資源等がある。「地（知）の拠点」である大学がどのような使命を負っているのかを理解できる内容とする。 第8回 まとめと継続・発展学習への誘い。本授業で取り扱った内容の簡潔なレビューを行い、今後の主題C－講義型科目・実践型科目へ誘う。まとめについては、各界の関係者に登場いただくシンポジウム形式を用い、本学学生に地域志向性を身に付けてもらうことの意義と地域の将来像についての展望を示す。			
教科書・参考書等 LMS（学習管理システム：Learning Management System）で紹介する。			
オフィスアワー 基本的には、担当教員がメールでの質問に随時回答する形を取る。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 香川大学や地域の理解を深めるとともに、フィールドワーク型授業の受講へ進んで欲しい。			

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：000701) 主題C-基礎科目「地域理解」 Regional studies (Basic knowledge) 地域と香川大学 Study on Areas we live in and Kagawa University	科目区分 主題科目	時間割 4Q時間外	対象年次及び学科 1～3全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 清國 祐二, 林 敏浩 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義(e-Learning視聴)90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 本授業は「地域の中にある香川大学」と「地域理解」の二部構成となる。前者は香川大学の成り立ちや変遷、特色のある研究や教育、社会貢献活動について学ぶ。後者は本学が位置する地域（主に香川）の特色、歴史や文化、地勢、産業、観光等について幅広く学ぶ。			
授業の目的 地域社会について理解を深め（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、地域に愛着を持つとともに、地域に根ざした学生中心の大学を標榜する本学の精神を学ぶことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 本学の成り立ちや歴史、輩出された人材、特色ある研究やその成果、社会貢献活動等について理解することで、本学への帰属意識を高めることができる。 2. 本学の位置する地域（主に香川）のよさや魅力を認識するとともに、それらの担い手や仕掛け人等の存在や活動を理解することができる。 3. 地域（主に香川）の問題や課題を認識するとともに、それらの解決に向けて取り組む人びとや組織・団体の存在に気付くことができる。			
成績評価の方法と基準 成績評価は合格・不合格の認定形式で行う。（各回の授業視聴後に、知識や理解度を測定するための選択式の問題を出す。最終レポートは、指定した数個のキーワードを生かして記述し、授業のねらいの浸透を図る。）			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
オリエンテーション回：本授業のねらい、概要（内容紹介）、受講方法、評価等を確認する。 第1回 地域の中にある香川大学①：本学の成り立ちや変遷、歴史を多面的に解説する。学長および教育担当理事が、本学の経営理念や存在意義、本学の目指す大学像や学生教育等に関してメッセージを送る。 第2回 地域の中にある香川大学②：本学の研究・教育・社会貢献の特色。本学のプロモーションビデオ等も活用し、本学の魅力をソフトに伝える。それを受けて、現学部長が学部紹介を地域貢献（研究面での貢献も含む）と人材育成の文脈を中心にその魅力と特色を紹介する。 第3回 地域理解①：地域（主に香川）の特色を紹介。香川県や県内市町あるいはその近隣の地勢や歴史、文化芸術、伝統芸能・行事、伝統産業・遺産、人物等について触れる。 第4回 地域理解②：地域（主に香川）の産業や資源に関する特色を紹介する。香川県および市町のプロモーションビデオ等も活用しつつ、香川県についての理解を深める。 第5回 地域理解③：地域（主に香川）で働く意識の醸成。産業振興を担当する行政職員へのインタビューから始まり、香川県内の産業や就業状況についての課題や展望について理解する。また、本学学生の近年の就職状況や就職支援について、COC+関係者やキャリア支援センターより解説する。 第6回 地域理解④：地域（主に香川）での学修（フィールドワーク型授業）への誘い。瀬戸内地域活性化プロジェクトやインターンシップの取組を中心に、地域で学ぶことの意義や魅力について紹介する。街活性化や産業振興、観光振興、定住促進等のテーマごとに、学生のセンスを生かした主体的取組を中心とする。 第7回 地域理解⑤：地域（主に香川）への責任を果たせる人となるために。本学学生には地域の責任ある担い手として、職業人・社会人・地域人として、自ら進んで役割を果たしていく気概が求められる。本学が取り組んでいる地域貢献活動の代表的なものとして、防災、里山・里海、水資源等がある。「地（知）の拠点」である大学がどのような使命を負っているのかを理解できる内容とする。 第8回 まとめと継続・発展学習への誘い。本授業で取り扱った内容の簡潔なレビューを行い、今後の主題C－講義型科目・実践型科目へ誘う。まとめについては、各界の関係者に登場いただくシンポジウム形式を用い、本学学生に地域志向性を身に付けてもらうことの意義と地域の将来像についての展望を示す。			
教科書・参考書等 LMS（学習管理システム：Learning Management System）で紹介する。			
オフィスアワー 基本的には、担当教員がメールでの質問に随時回答する形を取る。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 香川大学や地域の理解を深めるとともに、フィールドワーク型授業の受講へ進んで欲しい。			

ナンバリングコード B2THC-cdeG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード：0007021) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 防災リテラシー養成講座(災害を知る)A Disasters Literacy Education A	科目区分 主題科目	時間割 1Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 cdeG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 長谷川 修一	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座 (第2クォーター) 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ2・後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる (申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成する(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)ことを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。 3. 本講義とQ2・第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス：防災士を目指そう(防災士の役割) 第2週 近年の自然災害に学ぶー災害現場からの教訓ー 第3週 地震・津波災害と対策 第4週 火山噴火のしくみと被害 第5週 風水害と対策 第6週 土砂災害と対策 第7週 防災気象情報の知識と活用ー公的機関による予警報ー 第8週 中間テスト(45分)と火災と防火対策(45分) なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			
教科書・参考書等 教科書：日本防災士機構編集発行「平成31年度防災士教本」(頒布価格：3000円) (第1回の講義の際に頒布するので、受講者は必ず購入すること) テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。			

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日12：00－13：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、2学期の防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。

ナンバリングコード B2THC-cdeG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード：0007022) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 防災リテラシー養成講座(災害を知る)B Disasters Literacy Education B	科目区分 主題科目	時間割 2Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 cdeG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 長谷川 修一	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座 (第1クォーター) 防災コンピテンシー養成講座 (災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ1・後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成する(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)ことを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。 3. 本講義とQ1・第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 地震に関する知見・情報 第2週 災害報道―災害情報の入手・発信と流言・風評― 第3週 災害とライフライン 第4週 災害と交通インフラ―四国の防災対策― 第5週 行政の災害対応―香川県の防災対策― 第6週 先人の教えに学ぶローテク防災術 第7週 都市防災 第8週 まとめと修了式(45分) 試験(45分)			
なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			
教科書・参考書等 教科書：日本防災士機構編集発行「平成31年度防災士教本」(頒布価格：3000円) (第1クォーター第1回の講義の際に頒布するので、受講者は必ず購入すること) テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。			

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日12：00－13：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、2学期の防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 0007031) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編 History and Culture of Shikoku area first period	科目区分 主題科目	時間割 1Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 守田 逸人, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目	四国の歴史と文化 その2 文化編	
	履修推奨科目	四国の歴史と文化 その2 文化編	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 四国の歴史・文化について講義する。各回では、四国で活躍した人々の事績や、都と四国との結びつき、四国に残された遺跡・史跡など、四国の歴史に関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的 四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の歴史と文化について知識を得ることができる。歴史に関わる回では、現代的課題でもある四国地域と京阪神地域との結びつきなどについて、理解を深めることもできる。 本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高める（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）とともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目標である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 四国地域の「歴史と文化」についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。 2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。			
成績評価の方法と基準 ガイダンスを除く授業7回分の小テストを各6点満点（計42点満点）、期末レポート課題を58点満点の合計100点満点とし、合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 ① ガイダンス（授業概要、受講方法等について）、平安末阿波武士と仏教文化（大石 雅章/鳴門教育大学） ②屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(1)（田中健二 /香川大学教育学部） ③屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(2)（田中健二 /香川大学教育学部） ④屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(3)（田中健二 /香川大学教育学部） ⑤中世の瀬戸内海水運(1)（田中健二 /香川大学教育学部） ⑥中世の瀬戸内海水運(2)（田中健二 /香川大学教育学部） ⑦阿波商人の活躍と江戸時代の経済（桑原恵/徳島大学総合科学部） ⑧期末レポート（オンライン）			
【自学自習について】 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。			
【授業時間外学習について】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している。しっかり復習してから小テストを受験すること。			
教科書・参考書等 特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。電子メール（rekishi1@cc.kagawa-u.ac.jp）を利用すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業はフルオンデマンドのe-Learning形態で実施するため講義室での対面授業は行わない。また、受講制限をかける場合がある。詳細は大学連携e-Learning教育支援センター四国ホームページ（URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html ）にある「知プラe科目の履修案内」に記載されているので必ず熟読のこと。 本授業を履修するためには、各自パソコンから教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要となる。各登録は期限内に完了すること。もし期限内に登録が完了していない場合は履修を許可しない。また、受講方法の詳細については第1回（ガイダンス）で説明しているので必ず視聴すること。 各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。			
平成30年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 0007032) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の歴史と文化 その2 文化編 History and Culture of Shikoku area second period	科目区分 主題科目	時間割 2Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 渡邊 史郎, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目	四国の歴史と文化 その1 歴史編	
	履修推奨科目	四国の歴史と文化 その1 歴史編	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 四国の文化について講義する。各回では、四国に関わる文学作品などに関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的 ・四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の文化について知識を得ることができる。四国の風土や歴史に関わる文学や方言の内実について、いくらか知ることができる。 ・本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高める（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）とともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目標である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 四国地域の文化についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。 2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト（7回：各6点満点）と期末レポート課題（1回：58点満点）の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。またレポートに剽窃が認められた場合も「不可」となる。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 1 ガイダンス、四国の文化に向けて（渡邊史郎/香川大学教育学部） 2 四国の万葉集と古代史（田中省造/四国大学文学部） 3 石碑の持つ意味——屋島の石碑を題材に——（池田 恭哉/香川大学教育学部） 4 物理学者・寺田寅彦の文学（永橋 禎子/高知県立文学館） 5 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面（渡邊史郎/香川大学教育学部） 6 菊地寛について（藤井雄三/高松市教育委員会） 7 愛媛を歩く——方言の旅——（清水 史/愛媛大学法文学部） 8 期末レポート（オンライン） ※各回の担当者の所属については、コンテンツ収録当時のものです。 ……7までのコンテンツを視聴したのち、各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。期末レポートについては、第1回のレポートに関するガイダンスをよく理解して取り組むこと。特にどのようなものが剽窃に当たるかを厳密に理解することが重要である。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム等）や第1回（ガイダンス）で通知するメールアドレスを活用すること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。
- ・ 平成30年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 0007041) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の地域振興 その1 Local Development of Shikoku area first period	科目区分 主題科目	時間割 3Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目	四国の地域振興 その2	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 【キーワード】四国、地域振興、地場産業、地方制度 四国における地域振興の取組みを以下の側面から学びます。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。これに関わる代表的な事例を取り上げます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探ります。			
授業の目的 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うこと(香川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる。			
成績評価の方法と基準 各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。 なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) ガイダンス:「四国の地域振興 その1」で何を学ぶか? (2) 讃岐のハマチ養殖と野網和三郎 (嶋野勝路(全国海水養魚協会会長)) (3) 讃岐うどん (香川政明(さぬき麺業社長)) (4) 香川の手袋産業 (原直行(香川大学)) (5) 香川の石材産業 (西成典久(香川大学)) (6) 高知の林業と製造業 (石筒覚・霜田博史(高知大学)) (7) 動画による地域のPR (林敏浩(香川大学)) (8) 四万十の今と昔 (原直行(香川大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS(Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】平成30年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007042) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の地域振興 その2 Local Development of Shikoku area second period	科目区分 主題科目	時間割 4Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目	四国の地域振興 その1	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 【キーワード】四国、地域振興、地場産業、地方制度 四国における地域振興の取組みを以下の側面から学びます。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。これに関わる代表的な事例を取り上げます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探ります。			
授業の目的 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うこと（香川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる。			
成績評価の方法と基準 各回の課題（8回：各最高10点）と最終課題（1回：最高20点）を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。 なお、各回の課題の提出回数（最大8回）が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) ガイダンス：「四国の地域振興 その2」で何を学ぶか？ (2) 文化力とまちづくり (竹内守善 (香川大学非常勤講師)) (3) 地域振興とメディア (林敏浩 (香川大学)) (4) アートとエコツーリズム (石井亨 (香川大学非常勤講師)) (5) 共同体の崩壊 (石井亨 (香川大学非常勤講師)) (6) 四国四県の政治経済の歴史 (八幡和郎 (徳島文理大学)) (7) 四国の展望—四県知事インタビュー— (八幡和郎 (徳島文理大学)) (8) 四国の展望—四県知事インタビュー— (八幡和郎 (徳島文理大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、オンラインレポート提出）を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			

オフィスアワー 時間：金曜日 1 時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟 4 階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】平成30年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 0007051) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の自然環境と防災 その1 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area first period	科目区分 主題科目	時間割 3Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地形が物語る壮大な四国形成史のドラマ。豪雨地帯と乾燥地帯の同居する島に生きる人々の水資源を求める知恵のかずかず。「美しさ」を取り戻したかに見える瀬戸内の環境に忍び寄るかかつてない危機。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的 四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 四国の自然を地球誌の中にとらえ直す視点の転換を体験する。 3. 四国の自然の魅力をさぐるツアーに、友達を連れて行けるようになる。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト（7回:各6点満点）と期末レポート課題（1回:58点満点）の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1部：四国の自然環境 （1）ガイダンス・ため池の歴史 黒川義夫（前香川県農政水産部） （2）四国の河川環境と暮らし・防災 古田昇（徳島文理大学文学部教授） （3）四国の気候と水資源 寺尾徹（香川大学教育学部教授） （4）讃岐の地形と地質の面白さ 長谷川修一（香川大学工学部教授） 第2部：瀬戸内と土佐の海洋と環境 （5）四国の国立公園の魅力 齋藤倫実（環境省高松自然保護官事務所自然保護官） （6）瀬戸内海の浅海環境の抱える問題 多田邦尚（香川大学農学部教授） （7）黒潮と土佐の海の環境学 深見公雄（高知大学農林海洋科学部 教授） （8）期末レポート ※授業内容は諸事情により変更になることがあります。			
【授業時間外学習について】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール（shizen@cc.kagawa-u.ac.jp）を利用してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。 平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 0007052) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の自然環境と防災 その2 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area second period	科目区分 主題科目	時間割 4Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地球最大級のプレート境界型地震・東南海・南海地震の危険が迫る太平洋岸。それとたたかおうと立ち上がる地域の力。自然の営みと人間の関わり方の新たな模索。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的 四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 四国の自然の循環のメカニズムを理解する。 3. 四国が直面する洪水や地震などの脅威に地域の中で正しく対処できるようになる。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト（7回:各6点満点）と期末レポート課題（1回:58点満点）の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第3部：災害に備える （1）ガイダンス・子どもぼうさい探検隊を通じた防災教育活動 片岡信彦（日本損保協会） （2）四国の大地の成り立ちから学ぶ自然災害 西山賢一（徳島大学総合科学部准教授） （3）先人の教えに学ぶ—四国防災88話— 松尾裕治（JACIC四国地方センター） （4）災害と交通インフラ—四国の防災対策— 植松真二（国土交通省四国地方整備局総括防災調整官）			
第4部：持続可能な自然と社会 （5）ジオパークは人を幸せにできるのか 柚洞一央（徳山大学経済学部准教授） （6）持続可能な社会づくりのための環境教育① 小林修（愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター・准教授） （7）持続可能な社会づくりのための環境教育② （8）期末レポート			
【授業時間外学習について】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール（shizen@cc.kagawa-u.ac.jp）を利用してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。 平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ecdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007061) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 瀬戸内地域活性化政策 その1 Setouchi regional vitalization policy first period	科目区分 主題科目	時間割 3Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 清國 祐二	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	瀬戸内地域活性化政策 その2	
学習時間 授業(e-Learning)90分×8回＋自学自習			
授業の概要 香川大学が瀬戸内地域の様々な活性化策に取り組む「瀬戸内地域活性化プロジェクト」を通じて、その背景となる課題と解決策を学び、地域活性化について考える機会を幅広く提供する。			
授業の目的 瀬戸内地域の活性化に関わる具体的なプロジェクトについて、そのプロジェクトを行う意義を考え、プロジェクトの具体策に係る検討を進めていくことで、地域活性化を進める方策を検討するための考察力を身につける。また、地域活性化政策の推進に関する行財政制度などの基本的な仕組みや、県内外の地域活性化に関する事例について学ぶ（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 瀬戸内地域の活性化に関する課題と対応する政策の考え方について述べるができる。 2. 身近な地域における地域活性化策の検討の仕方について述べるができる。 3. 地域活性化の取り組み方について、様々な事例を挙げて説明することができる。 4. 地域政策の推進に関する行財政制度などの基本的な仕組みについて説明することができる。			
成績評価の方法と基準 成績は、各回の小テスト60%、期末レポート40%で評価する。合計60%以上で合格とする。第1回から第7回までの小テストの未受験（未提出）回数が合計2回以上の受講生には、期末レポート提出資格を与えない。第1回から第7回までの小テストで合計60%の成績を収めていても、期末レポートを提出していない場合（レポート提出資格がない場合も含む）は不合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業スケジュール】 ①ガイダンス ②瀬戸内地域活性化プロジェクト 概説 1 背景と課題 ③瀬戸内地域活性化プロジェクト 概説 2 各プロジェクトの取組 ④瀬戸内地域活性化プロジェクト 概説 3 各プロジェクトの取組、様々な地域活性化策 ⑤地方公共団体の組織と財政1 ⑥地方公共団体の組織と財政2 ⑦地方創生と地域活性化			
※上記以外に期末レポートがありますので注意ください。			
【授業及び学習の方法】 インターネットで配信される e ラーニング教材を、大学や自宅などで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。 各回には、講義映像、小テストなどのコンテンツを配置する。講義映像を視聴してから小テストを受験すること。小テストの受験可能期間は各回ごとに記載する。7回分の授業終了後、期限内に期末レポートを提出すること。			
【授業時間外学習について】 各回の内容について、理解度を測るため、および出席確認のため、e ラーニング教材に基づいた小テストを実施する。 なお、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			

オフィスアワー 木曜日と金曜日の12:00-13:00に生涯学習教育研究センター（研究交流棟6階）にて

e-mail:kiyokuni@cc.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義を履修する際には、各自でパソコンからMoodle（LMS）への登録が必要となる。大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修案内をよく読んで、期限内に登録を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。平成30年度以前に「瀬戸内地域活性化政策」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THC-ecdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007062) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 瀬戸内地域活性化政策 その2 Setouchi regional vitalization policy second period	科目区分 主題科目	時間割 4Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 清國 祐二	関連授業科目	瀬戸内地域活性化政策	その1
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業(e-Learning)90分×8回＋自学自習			
授業の概要 香川大学が瀬戸内地域の様々な活性化策に取り組む「瀬戸内地域活性化プロジェクト」を通じて、その背景となる課題と解決策を学び、地域活性化について考える機会を幅広く提供する。			
授業の目的 瀬戸内地域の活性化に関わる具体的なプロジェクトについて、そのプロジェクトを行う意義を考え、プロジェクトの具体策に係る検討を進めていくことで、地域活性化を進める方策を検討するための考察力を身につける。また、地域活性化政策の推進に関する行財政制度などの基本的な仕組みや、県内外の地域活性化に関する事例について学ぶ（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 瀬戸内地域の活性化に関する課題と対応する政策の考え方について述べるができる。 2. 身近な地域における地域活性化策の検討の仕方について述べるができる。 3. 地域活性化の取り組み方について、様々な事例を挙げて説明することができる。 4. 地域政策の推進に関する行財政制度などの基本的な仕組みについて説明することができる。			
成績評価の方法と基準 成績は、各回の小テスト60%、期末レポート40%で評価する。合計60%以上で合格とする。第1回から第7回までの小テストの未受験（未提出）回数が合計2回以上の受講生には、期末レポート提出資格を与えない。第1回から第7回までの小テストで合計60%の成績を収めていても、期末レポートを提出していない場合（レポート提出資格がない場合も含む）は不合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業スケジュール】 ①ガイダンス、地域活性化政策1 産業振興政策 ②地域活性化政策2 観光振興政策 ③地域活性化政策3 離島振興政策 ④地域活性化政策4 中心市街地活性化政策 ⑤地域活性化政策5 地域福祉政策 ⑥地域活性化政策6 その他の地域活性化政策 ⑦地域活性化と人材力 ※上記以外に期末レポートがありますので注意ください。 【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるeラーニング教材を、大学や自宅などで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。 各回には、講義映像、小テストなどのコンテンツを配置する。講義映像を視聴してから小テストを受験すること。小テストの受験可能期間は各回ごとに記載する。7回分の授業終了後、期限内に期末レポートを提出すること。 【授業時間外学習について】 各回の内容について、理解度を測るため、および出席確認のため、eラーニング教材に基づいた小テストを実施する。 なお、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			

オフィスアワー 木曜日と金曜日の12:00-13:00に地域連携・生涯学習センター（研究交流棟6階）にて

e-mail:kiyokuni@cc.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義を履修する際には、各自でパソコンからMoodle（LMS）への登録が必要となる。大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修案内をよく読んで、期限内に登録を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。平成30年度以前に「瀬戸内地域活性化政策」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007071) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 瀬戸内海論 その1 Seto Inland Sea and Setoumi first period	科目区分 主題科目	時間割 1Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	瀬戸内海論 その2	
	履修推奨科目	瀬戸内海論 その2	
学習時間 授業（e-Learning）90分×8回＋自学自習			
授業の概要 e-learningによる映像配信型授業であり、瀬戸内海の環境問題、資源問題を対象に調査研究している研究者によるオムニバス形式の授業である。			
授業の目的 物理学、生物学などの自然科学的観点から瀬戸内海の環境問題、資源問題に接近すると同時に、法学などの社会科学的観点からも対象に接近する。文理融合的な観点から知識を得る（共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応）ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
1．瀬戸内海の環境問題・資源問題について物理学、生物学などの自然科学的観点から理解し説明できる。 2．瀬戸内海の環境問題・資源問題について法学などの社会科学的観点から理解し説明できる。			
成績評価の方法と基準 成績は、毎回の授業の小テストが70%、レポート30%の割合で評価し、60%以上を合格とする。ただし、レポートを提出していなければ不合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業スケジュール 1．講義の概要・沿岸海域の物質輸送－1 2．沿岸海域の物質輸送－2 3．赤潮と被害防止－1 4．赤潮と被害防止－2 5．里海としての瀬戸内海 6．瀬戸内海と瀬戸内法 7．里海を守り育てる人と法 8．期末レポート課題 講義の前の予習と講義後に関連する事項について復習する。 さらに、授業時間外に行う課題をレポートとして課す。 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 なし			
オフィスアワー 電子メール（setouchi@ec.kagawa-u.ac.jp）を利用してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要。 平成30年度以前に「瀬戸内海論」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード： 0007072) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 瀬戸内海論 その2 Seto Inland Sea and Setoumi second period	科目区分 主題科目	時間割 2Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プロ グラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	瀬戸内海論 その1	
	履修推奨科目	瀬戸内海論 その1	
学習時間 授業（e-Learning）90分×8回＋自学自習			
授業の概要 e-learningによる映像配信型授業であり、瀬戸内海の環境問題、資源問題を対象に調査研究している研究者によるオムニバス形式の授業である。			
授業の目的 化学、生物学、地学などの自然科学的観点から瀬戸内海の環境問題、資源問題に接近すると同時に、経済学などの社会科学的観点からも対象に接近する。文理融合的な観点から知識を得る（共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応）ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
1．瀬戸内海の環境問題・資源問題について化学、生物学、地学などの自然科学的観点から理解し説明できる。 2．瀬戸内海の環境問題・資源問題について経済学などの社会科学的観点から理解し説明できる。			
成績評価の方法と基準 成績は、毎回の授業の小テストが70%、レポート30%の割合で評価し、60%以上を合格とする。ただし、レポートを提出していなければ不合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業スケジュール 1．瀬戸内海と海域環境 2．瀬戸内海の浅海環境の抱える問題 3．干潟の環境－1 4．干潟の環境－2 5．干潟の藻類 6．四国の雨の変化と地球温暖化 7．里海と地域活性化 8．期末レポート課題 講義の前の予習と講義後に関連する事項について復習する。 さらに、授業時間外に行う課題をレポートとして課す。 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 なし			
オフィスアワー 電子メール（setouchi@ec.kagawa-u.ac.jp）を利用してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要。 平成30年度以前に「瀬戸内海論」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007081) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川の文化と歴史 その1 Culture and History of Kagawa first period	科目区分 主題科目	時間割 1Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 原 直行, 山田 香織	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	香川の文化と歴史その2	
学習時間 授業(e-Learning)90分×8回＋自学自習			
授業の概要 香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げることができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、歴史と生活・習俗について概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。			
授業の目的 瀬戸内地域を中心とした香川に関する知見を深めるとともに、同地域が抱える課題とその解決に向けた取り組みの態について理解する（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 瀬戸内地域を中心とした香川の地域的特徴と課題について説明ができる。 2. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。			
成績評価の方法と基準 各回の小テストおよび期末試験（レポート）により評価する（期末試験の受験必須）。 配点：100点満点（小テスト64点（各8点×8回）＋期末試験 36点） 小テスト未受験回数が3回以上の受講生は、期末試験の受験資格はありません。その場合は期末試験を受験しても成績評価対象としない。 期末試験を受験しない場合は、小テストのみで60点以上を取得していても成績評価対象としません。 すべての小テスト及び期末試験はMoodle（LMS）を用いてオンラインで実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
詳しい受講方法（小テストの受験の仕方、受験期間、配信映像の視聴期間等）についてはmoodle内の本科目ページにて説明をしています。受講にあたっては、必ずそちらも一読してください。			
第1回 香川の歴史 第2回 香川における文化振興の現状を理解する 第3回 香川にゆかりのある芸術とアーティスト（1） 第4回 香川にゆかりのある芸術とアーティスト（2） 第5回 里海里山文化について 第6回 祭礼行事（1） 第7回 祭礼行事（2） 第8回 魚食文化について			
※授業構成の関係上、授業内容が変更・前後することがあります。			
【授業時間外学習について】 各回の授業内容について理解を深めるため、各自、インターネットや書籍等で適宜、情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録に加えてe-Learningシステム（LMS）の登録が必要です。大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム等）にて問い合わせをすること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

本講義を履修する際には、各自でパソコンからのMoodle (LMS) への登録が必要となるので、登録作業を所定期間内に完了すること。この期間に登録が完了できなかった場合は、原則、履修を許可しない。

本授業内容に関する問い合わせは以下のメールアドレスに送付してください。

setouchi@ec.kagawa-u.ac.jp

平成30年度以前に「香川の文化と歴史」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007082) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川の文化と歴史 その2 Culture and History of Kagawa second period	科目区分 主題科目	時間割 2Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 原 直行, 山田 香織	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	香川の文化と歴史その1	
学習時間 授業(e-Learning)90分×8回＋自学自習			
授業の概要 香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げることができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、離島の生活・習俗を概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。			
授業の目的 瀬戸内地域を中心とした香川に関する知見を深めるとともに、同地域が抱える課題とその解決に向けた取り組みの現状について理解する（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 瀬戸内地域を中心とした香川の地域的特徴と課題について説明ができる。 2. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。			
成績評価の方法と基準 各回の小テストおよび期末試験（レポート）により評価する（期末試験の受験必須）。 配点：100点満点（小テスト64点（各8点×8回）＋期末試験 36点） 小テスト未受験回数が3回以上の受講生は、期末試験の受験資格はありません。その場合は期末試験を受験しても成績評価対象としない。 期末試験を受験しない場合は、小テストのみで60点以上を取得していても成績評価対象としません。 すべての小テスト及び期末試験はMoodle（LMS）を用いてオンラインで実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
詳しい受講方法（小テストの受験の仕方、受験期間、配信映像の視聴期間等）についてはmoodle内の本科目ページにて説明をしています。受講にあたっては、必ずそちらも一読してください。			
第1回 離島と離島振興について理解する 第2回 景観論の観点から瀬戸内地域を概観する 第3回 瀬戸内の漁労文化と島の暮らし 第4回 伊吹島の事例 第5回 直島の事例 第6回 瀬戸内国際芸術祭① 第7回 瀬戸内国際芸術祭② 第8回 瀬戸内国際芸術祭③			
※授業構成の関係上、授業内容が変更・前後することがあります。			
【授業時間外学習について】 各回の授業内容について理解を深めるため、各自、インターネットや書籍等で適宜、情報収集に努めること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録に加えてe-Learningシステム（LMS）の登録が必要です。大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム等）にて問い合わせをすること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

本講義を履修する際には、各自でパソコンからのMoodle (LMS) への登録が必要となるので、登録作業を所定期間内に完了すること。この期間に登録が完了できなかった場合は、原則、履修を許可しない。

本授業内容に関する問い合わせは以下のメールアドレスに送付してください。

setouchi@ec.kagawa-u.ac.jp

平成30年度以前に「香川の文化と歴史」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード：0007091) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川を学ぶ その1 Culture and History of Kagawa first period	科目区分 主題科目	時間割 3Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 林 敏浩	関連授業科目	香川を学ぶ その2	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、栗林公園などの歴史、伝統食、文化財、及び産業の一端を紹介する。			
授業の目的 香川県（讃岐）の伝統食や文化財、香川県内の産業に関する事柄など、香川県にまつわる歴史、伝統、及び産業に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高める（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ことができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 讃岐地方の歴史や文化財、伝統食について説明できる。 3. 香川県内の特色ある産業について説明できる。			
成績評価の方法と基準 小テスト7回（50点）＋期末レポート（50点）により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出（受験）していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス（授業概要等）、栗林公園の美と歴史 2. 讃岐の盆栽 3. 讃岐の伝統食 4. 瀬戸内海運の歴史 5. 文化財と観光資源論 6. 香川の手袋産業 7. 大学と地場産業との連携 8. 期末レポート			
第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。			
各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講人数制限があるので注意すること。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー オフィスアワーは設定しないので、電子メール (kgw01@cc.kagawa-u.ac.jp) を利用のこと。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識と技術を有していること。なお、平成30年度以前に「香川を学ぶ (セメスター科目名)」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 0007092) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川を学ぶ その2 Culture and History of Kagawa second period	科目区分 主題科目	時間割 4Q時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebcG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 林 敏浩	関連授業科目	香川を学ぶ その1	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、香川におけるまちづくりの事例、水問題、瀬戸内海、災害などに関する事柄を紹介する。			
授業の目的 香川県(讃岐)のまちづくり事例、水問題、瀬戸内海、災害に関する事柄など、香川県にまつわる社会活動及び環境に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高める(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)ことができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 2. 香川県におけるまちづくり活動について説明できる。 3. 香川を含む瀬戸内地方における環境について説明できる。			
成績評価の方法と基準 小テスト7回(50点)＋期末レポート(50点)により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出(受験)していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業概要等)、香川の国際協力団体によるラオスでの支援活動 2. まちづくりの事例 3. 香川の水を考える 4. 瀬戸内海と瀬戸内法 5. 里海を守り育てる人と法 6. ゲリラ豪雨等災害と避難のシミュレーション 7. 風水害と対策 8. 期末レポート 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講人数制限があるので注意すること。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー オフィスアワーは設定しないので、電子メール(kgw01@cc.kagawa-u.ac.jp)を利用のこと。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識と技術を有していること。なお、平成30年度以前に「香川を学ぶ(セメスター科目名)」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000710) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 阿波学 Awa-Gaku	科目区分 主題科目	時間割 前期時間外	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ebxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 藤原 伸彦, 宮下 晃一, 竹口 幸志	関連授業科目	特になし	
	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】(1) 四国遍路、(2) 俳句の心理学、(3) 四国遍路の歴史、文化、地理、(4) 歩き遍路と教育 四国遍路の歴史や文化、歩き遍路体験者の心理等について、講義を通して学ぶ。			
授業の目的 四国の文化アイデンティティたる遍路について学ぶことを通じ、地域理解を深め、地域の教育リーダーとしての資質を養う。講義を通して、遍路に関する基礎理解（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）を形成する。遍路の歴史や文化、遍路と地域社会のかかわりなどについて知る。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
講義により、地域社会における遍路文化に関する基礎理解を得る。歩き遍路体験により、遍路地域の文化や自然、遍路を支える人々の活動、自治体の取組などを直接知る。以上を通じ、教育や学校にたずさわろうとする者にとっての、地域文化を理解・尊重する基盤的態度・視座を形成する。			
成績評価の方法と基準 課題の提出状況及び内容、フォーラムにおけるディスカッションの状況及び内容等を総合的に評価する。ただし、3分の2以上の出席を要する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション 第2回 四国遍路と俳句の心理学 第3回 四国遍路と地理 第4回 四国遍路に関する歴史（近世） 第5回 歩き遍路と教育（1） 第6回 歩き遍路と教育（2） 第7回 歩き遍路と教育（3） 第8回 まとめ			
【授業時間外学習について】 毎回課題が出るので、必ず取り組むこと。課題の提出を持って出席とする。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール (fujihara@naruto-u.ac.jp) で問い合わせること			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 平成30年度以前に「阿波学」を単位修得している場合は履修できない。 動画には著作権があるため、むやみにダウンロードなどしないこと。			

ナンバリングコード B2THC-bceG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード：000711) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 地形・地質からみた讃岐の風土 Sanuki from view-point of topograhya and geology	科目区分 主題科目	時間割 2Q火1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 bceG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 長谷川 修一，寺林 優	関連授業科目 地学A		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 ある地域の大地は他の地域と異なる多様な地質（岩石や地層）によってできている。そして、地質を母材として地殻変動や風化・侵食・運搬・堆積によって特有な地形が形成されてきた。また、その地質と地形を土台として気候に適合した生態系（動植物）が生まれ、それらの自然環境と歴史の上に私たちの生活、産業、文化、伝統と歴史がある。本授業では香川県の地形・地質から讃岐の風土の成り立ちを考える。また、大地の成り立ちから讃岐の強みと弱みを考える。			
授業の目的 本授業では香川県の地形・地質から讃岐の風土の成り立ちを考える。また、大地の成り立ちから讃岐の強みと弱みを考える。これによって、香川を例として「地域」の現状や課題を把握し、問題解決のための基礎的教養だけでなく、大地の成り立ちから「地域」をよりよく理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高める（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ことができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 香川県の地形と地質の成り立ちについて説明することができる。 2. 地形・地質から讃岐の風土の成り立ちについて説明することができる。 3. 大地の成り立ちから讃岐の強みと弱みを説明することができる。 4. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。			
成績評価の方法と基準 毎回のレポート（約50%）と期末レポート（50%）によって評価する。 毎回出席を取る。単位の認定には2/3以上の出席が必要。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、今なぜ地域を学ぶのか？ 第 2回 讃岐のお国自慢を探す 第 3回 ジオパークの視点からみた讃岐 第 4回 香川大学博物館から讃岐の宝を考える 第 5回 讃岐平野と備讃瀬戸の造形美 第 6回 大地の成り立ちからみた讃岐の名産と食文化 第 7回 大地の成り立ちからみた讃岐の強みと弱み 第 8回 まとめ			
なお、授業計画に関しては、進捗状況との関係でやむを得ず変更が必要となる可能性があります。			
【授業及び学習の方法】 前半は地域を知ることの重要性に気づくため、故郷のお国自慢を探し、発表する授業を行う。また後半は香川県を題材に大地の成り立ちから地域を知る方法について学び、讃岐の強みと弱みについて発表を行う。			
【自習のためのアドバイス】 レポート作成の題材を探すには、インターネット検索が手軽であるが、インターネットの情報だけ他人を説得できる資料を作成する事はできない。レポートの作成には、自分で現地を取材する、人にあって話を聞くなどの能動的な作業を心がけること。			
教科書・参考書等 長谷川修一・鶴田聖子：讃岐ジオサイト探訪，香川大学生涯学習研究センター研究報告（別冊），133p.			
オフィスアワー オフィスアワー 火曜日12:00-13:00 （創造工学部 2 号館 3 階長谷川研究室）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 30年度の「地形地質からみた讃岐の風土（その1）」もしくは「地形地質からみた讃岐の風土（その2）」を履修し、単位を取得したものは、本授業を履修することはできない。			

ナンバリングコード B2THC-cdeG-1N-Lx2 授業科目名 (時間割コード：000801) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) Disasters Competency Education	科目区分 主題科目 水準・分野 B2THC 授業形態 Lx	時間割 後期木5 DP・提供部局 cdeG 単位数 2	対象年次及び学科 1～全学共通科目 対象学生・特定プログラムとの対応 1N
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 井面 仁志, 松島 学, 中島 美登子, 黒田 泰弘, 長谷川 修一	関連授業科目 防災リテラシー養成講座 (災害を知る) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座 (災害を知る)		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義と1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成する(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)ことを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。 3. 本講義と第1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス 被害想定とハザードマップ 第2週 防災訓練ー災害イメージ訓練ー 第3週 避難と避難行動 第4週 事業継続計画と地域継続計画 第5週 耐震診断と耐震補強 第6週 身近でできる防災対策 第7週 災害復旧と支援制度ー高松市の防災対策ー 第8週 避難所の運営と仮設住宅の暮らし 第9週 緊急救助技術を身につける 第10週 災害医療 第11週 地域の防災活動 第12週 災害とボランティア活動 第13週 惨事ストレスと心のケア 第14週 災害と損害保険 第15週 災害と危機管理, 修了式			
なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			

【自学自習に関するアドバイス】

講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。

教科書・参考書等

教科書：日本防災士機構編集発行「平成31年度防災士教本」（頒布価格：3000円）

（第1回の講義の際に頒布するので、受講者は必ず購入すること）

テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日12：00－13：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、1学期の防災リテラシー養成講座（災害を知る）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。

ナンバリングコード B2THC-ecxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：000802) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ Human Resource Development for Contributions to Local Communities (Practical CourseⅠ)	科目区分 主題科目	時間割 後期月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
	履修推奨科目 地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～、キャリアデザインと職業適性		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業は、将来、実社会で活躍したいという志を抱いている学生を主な対象に、その学生が「タフで課題解決能力のある人財」に育つことを支援する教育訓練を行う。授業内容としては、グローカリゼーション（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）的発想力や行動力の涵養をはかることに重点を置き、講義と演習（主にグループワークとプレゼンテーション）を行う。なお、本授業は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に含まれる「鍛えあげ型人財育成プログラム」の科目である。			
授業の目的 学生が「鍛えあげ型人財育成プログラム」の目指す「タフで課題解決能力のある人財」になるためには、①自己理解・他者理解、②視野・見識（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、③主体的能動的意識（同前）、④課題の発見、⑤他者と協働した課題解決力、⑥グローバル化社会に対応した自己表現力、をそれぞれ高めることが重要である。本授業では、特に②③⑥の強化を目的としている。（実践講座Ⅱのシラバスも参照のこと）			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
①グローカリゼーション的発想をするために、地域および自分の特徴・特性を説明できる。 ②論理的な仮説を立てることができ、想いを具体的な行動へと移せる。 ③志に基づいた夢と自己効力感を、わかりやすくプレゼンテーションできる。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み態度(50%)、発表成果(20%)、提出レポートの内容(30%)をもとに判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション・アイスブレイク 第2回 地域理解1 あなたの生活圏は世界の中にある 第3回 地域理解2 地域の意味や役割の変化〔地域に関する関心と理解力〕 第4回 キャリア形成1 地域で活躍する人材とはなにか 第5回 キャリア形成2 社会人基礎力から自己理解を深める 第6回 グループワーク 大学生のキャリア形成考 第7回 キャリアにおける意思決定のタイミングを考える 第8回 問題解決のための様々なアプローチ 第9回 グループワーク コンセンサスと組織の意思決定 第10回 対面でのコミュニケーションスキル 第11回 プレゼンテーションの技術 第12回 グループワーク 経営者の視点・コンサルタントの視点 第13回 集団の中で働くということの意味 第14回 AI時代のエンプロイアビリティ（雇用されうる力）とは 第15回 まとめ 人財とはなにか			
【自学自習に関するアドバイス】 ① 自分が興味・関心を抱いた事象については、自分でさらに調べ確認して定着させること。 ② 授業をきっかけにして、世代間コミュニケーションのスキル向上や、チャンスをつかむ行動習慣づくりに、自ら積極的に取り組むこと。			
【備考】 グループワーク中心の講義では途中からの参加を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように十分留意すること。			
教科書・参考書等 必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布			
オフィスアワー [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 演習実施のため定員を上限50名とし、必要に応じて受講者人数調整を行う。（第1講は必ず出席すること）			

ナンバリングコード B2THC-ecxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 000803) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ Human Resource Development for Contributions to Local Communities (Practical Course Ⅱ)	科目区分 主題科目	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ		
	履修推奨科目 地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～、キャリアデザインと職業適性		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業は、将来、実社会で活躍したいという志を抱いている学生を主な対象に、その学生が「タフで課題解決能力のある人財」に育つことを支援する教育訓練を行う。授業内容としては、他者協働を効果的に行なうための知識やスキルの涵養をはかることに重点を置き、講義と演習（主にグループワーク&ディスカッション）を行う。なお、本授業は、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に含まれる「鍛えあげ型人財育成プログラム」の科目である。			
授業の目的 学生が「鍛えあげ型人財育成プログラム」の目指す「タフで課題解決能力のある人財」になるためには、①自己理解・他者理解、②視野・見識（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、③主体的能動的意識（同前）、④課題の発見、⑤他者と協働した課題解決力、⑥グローバル化社会に対応した自己表現力、をそれぞれ高めることが重要である。本授業では、特に①③④⑤の強化を目的としている。（実践講座Ⅰのシラバスも参照のこと）			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
①自分の認知スタイルのクセや傾向を説明できる。 ②他者協働の要点と留意点を説明できる。 ③チーム活動における他者協働のポイントを実感し、気づきを説明できる。 ④地域貢献人財として活躍する自己の将来像を語ることができる。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み態度(50%)、発表成果(20%)、提出レポートの内容(30%)をもとに判断する。[開講時期の都合により、成績評価は通常の前期科目よりも遅くなる]			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1. 実施期間・授業計画 平成31年9月24日(火)～9月27日(金) <1日目> 第1回 オリエンテーション・地域に関する関心と理解力 第2回 ～ 第4回 講義・演習 適性検査による自己理解 <2日目> 第5回 ～ 第8回 講義・グループワークAと肯定的フィードバック <3日目> 第9回 ～ 第12回 講義・グループワークBとコア・コンピタンス <4日目> 第13回～ 第14回 演習コンセンサスを形成するグループディスカッション 第15回 まとめ、提出レポートの作成及び提出 2. 実施場所 幸町キャンパス 教室未定 3. 履修方法 受講希望用紙を修学支援グループに直接提出（掲示版にて周知） 4. 自学自習 講義の中で、適宜指示する。 5. 備考 ① 集中講座期間中のスケジュールはもちろん、連続講義となるので体調管理にも十分注意すること。グループワーク中心の講義では途中からの参加（出席）を認めないので、ケアレスミスでの遅刻がないようタイムマネジメントに留意。 ② 集中講義期間中に台風等の悪天候で休講となった場合には、9月30日（月）を振替日とするので、可能な限り予定をあけておくこと。			
教科書・参考書等 必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布			
オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ DreamCampusからメール連絡を行うため、設定を確認しておくこと。			

ナンバリグコード B2THC-ecaG-10-Lf2 授業科目名 (時間割コード：000804) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 瀬戸内地域活性化プロジェクトイ Project i on Regional Vitalization in Setouchi Area	科目区分 主題科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 地域インターンシップ		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回程度＋実習（45時間以上）＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 地域社会について理解を深め（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につくことができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 ＜授業＞ 本授業の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・ガイダンス（1回） ・参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修（2回） ・活動報告会のための学修（2回） 授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。			
＜プロジェクト＞【定員計100人】 ・島活性化プロジェクト【定員15人】 瀬戸内海の離島を訪問し、島民の方々との交流・実践を通じて、島のあり方を考えます。 現時点では、小豆島（土庄町、小豆島町）を主たるフィールドとする予定です。 ・高松の街活性化プロジェクト【定員15人】 高松市の商店街活性化に向けて、情報発信や地域コミュニティの場づくりなどを行いながら考えていきます。 ・丸亀市定住促進プロジェクト【定員15人】 シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。 ・観音寺市活性化プロジェクト【定員15人】 無人駅舎を地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。 ・東かがわ市定住促進プロジェクト【定員40人】 東かがわ市の地域資源（食、自然、文化など）を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実践します。			
※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。			
＜注意事項＞ ・初回で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。 ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。			

< 自学自習について >

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-10-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000805) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 瀬戸内地域活性化プロジェクト Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	科目区分 主題科目	時間割 後期月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 地域インターンシップ		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回程度＋実習(45時間以上)＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。なお、本授業は「地方と東京圏の大学生対流促進事業」対象の授業である。			
授業の目的 地域社会について理解を深め(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につくことができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 ＜授業＞ 本授業の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・ガイダンス(1回) ・参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修(2回) ・活動報告会のための学修(2回) 授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。 ＜プロジェクト＞【定員計5人】 ・島活性化プロジェクト【定員若干名】 瀬戸内海の離島を訪問し、島民の方々との交流・実践を通じて、島のあり方を考えます。 現時点では、小豆島(土庄町、小豆島町)を主たるフィールドとする予定です。 ・丸亀市定住促進プロジェクト【定員若干名】 シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。 ・観音寺市活性化プロジェクト【定員若干名】 無人駅舎を地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。 地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 ＜授業＞ ・ガイダンス(1回) ・参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修(2回) ・活動報告会のための学修(2回) 授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。 ＜プロジェクト＞【定員計5人】 ・島活性化プロジェクト【定員若干名】 瀬戸内海の離島を訪問し、島民の方々との交流・実践を通じて、島のあり方を考えます。			

現時点では、小豆島（土庄町、小豆島町）を主たるフィールドとする予定です。

- ・丸亀市定住促進プロジェクト【定員若干名】
シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。
- ・観音寺市活性化プロジェクト【定員若干名】
無人駅舎を地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。
- ・東かがわ市定住促進プロジェクト【定員若干名】
東かがわ市の地域資源（食、自然、文化など）を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実践します。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。

<注意事項>

- ・初回で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<注意>

前期開講の「瀬戸内地域活性化プロジェクト イ」を履修した学生は本授業を履修することはできません。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-10-Lf2 授業科目名 (時間割コード：000806) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域インターンシップイ Internship in the region	科目区分 主題科目	時間割 前期金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回＋実習（45時間以上）＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて定期的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 インターンシップへの参加とその態度：70%、事前講義・報告会・レポート：30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
本科目は授業（5回）と講義10回分に相当する実習（＝インターンシップ）から構成されます。成績評価に必要な実習時間数は45時間以上です。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。			
【授業】 インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 所定の時間割での授業は原則以下5回です。 ・ガイダンス（授業概要説明とインターンシップ先紹介）（1回） ・インターンシップ先の決定（受け入れ先担当者との顔合わせ）（1回） ・インターンシップ先に関する学修（1回） ・中間報告会（1回） ・活動報告会のための学修（1回）			
【インターンシップ】 地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり（今後の展望について自治体・住民等とも話し合い） ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します（詳細は受け入れ先と学生で調整）。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する（方法については追って指示）。			
【インターンシップ実施後】 「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する（報告会：10月頃実施予定）。			
【活動場所・受け入れ先】 今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。 本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。 また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。			
<受け入れ先> ・訪問型： 東かがわ市；東かがわ相生ふるさと協議会（10名） 小豆島町；道の駅小豆島ふるさと村（4名）、井上誠耕園（4名）、			

高松市；情報通信交流館 e-とぴあ・かがわ（4名）、四国新聞社（4名）、職人育成塾（20名）、その他
善通寺市；地域の魅力を発信する映像メディア作成ワークショップ（若干名）
県内自治体（各1名）
香川県；産業技術センター発酵食品研究所（若干名）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 担当教員にメールにてアポイントをとってください。

神田：rkanda@cc.kagawa-u.ac.jp

長尾：a.nagao@cc.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-10-Lf2 授業科目名 (時間割コード：000807) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域インターンシップⅠ Internship in the region	科目区分 主題科目	時間割 後期末1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回＋実習（45時間以上）＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて定期的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）、自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 インターンシップへの参加とその態度：70%、事前講義・報告会・レポート：30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
本科目は授業（5回）と講義10回分に相当する実習（＝インターンシップ）から構成されます。成績評価に必要な実習時間数は45時間以上です。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。			
【授 業】 インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 所定の時間割での授業は原則以下5回です。 ・ガイダンス（授業概要説明とインターンシップ先紹介）（1回） ・インターンシップ先の決定（受け入れ先担当者との顔合わせ）（1回） ・インターンシップ先に関する学修（1回） ・中間報告会（1回） ・活動報告会のための学修（1回） ※本授業は対流促進事業と連携して行い、統括コーディネーター特命准教授松永貴輝の指導の下実施する。			
【インターンシップ】 地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり（今後の展望について自治体・住民等とも話し合い） ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します（詳細は受け入れ先と学生で調整）。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する（方法については追って指示）。			
【インターンシップ実施後】 「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する（報告会：1月頃実施予定）。			
【活動場所・受け入れ先】 今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。 本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。 また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。			
＜受け入れ先（予定）、受け入れ人数 若干名＞ ・訪問型： 小豆島町；小豆島役場			

土庄町；土庄町役場
高松市；職人育成塾
香川県；県内企業

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 担当教員にメールにてアポイントをとってください。

神田：rkanda@cc.kagawa-u.ac.jp

長尾：a.nagao@cc.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

ナンバリングコード B2THC-ecdG-10-EP2 授業科目名 (時間割コード: 000808) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域活動 Activity in the region	科目区分 主題科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecdG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 EP	単位数 2	
担当教員名 平 篤志, 清國 祐二, 青山 夕夏	関連授業科目 「四国の歴史と文化」「四国の地域振興」「四国の自然環境と防災」		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×3回+実習(45時間以上)+発表会+自学自習			
授業の概要 地域活動に参加し, よりよい生涯学習社会の構築のあり方を実践的に学ぶ。			
授業の目的 地域活動に参加し, 地域社会に貢献することを通して, よりよい生涯学習社会の構築に関わる学習を実践的に行う(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域活動に参加し, 実際に地域社会に貢献ができる。 2. 地域活動の体験を元に, よりよい生涯学習社会の構築に関わる実践的な学習の意義を説明できる。			
成績評価の方法と基準 授業開始時の講義を受講し, その後指定する期間中に延べ45時間以上の活動に参加する。また, 指定の期日までに「地域活動の記録」(活動日誌) および中間・最終レポートを提出し, 活動内容を発表会で報告する。成績配分の目安: 授業への取り組み(地域活動, 日誌作成, 発表会を含む) 60%, 中間レポート10%, 最終レポート30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 地域活動期間中は, 活動日誌に活動内容を記録し, 活動途中と活動終了後にレポートを作成し, 活動報告(発表会)を行う。 第1回: ガイダンス, 授業の概要説明と個別プロジェクトの紹介 第2回: 地域活動概論(講義), 参加プロジェクト選択 第3回: 地域活動概論(講義), 参加プロジェクト決定 第4回～第14回: 各プロジェクトでの地域活動実施 第15回: 合同発表会 10月中: 活動の進行状況に関する中間レポート提出 2月: 最終レポート提出, 活動内容に関する合同発表会 講義担当: 清國祐二, コーディネータ: 平 篤志 プロジェクト(予定)一覧(担当者(50音順): プロジェクト名) ・清國祐二: 地域の公民館活動プロジェクト ・平 篤志: JR屋島駅を核とした屋島活性化プロジェクト ・青山夕夏: 地域の音楽活動プロジェクト 自学自習について 期間中, 地域活動に関する内外の文献を読み, 地域活動の意義について考えるとともに, 地域でどのような行事や活動が行われているか, 新聞やテレビ等の報道に注意を払う。 成績評価について(目安) 授業への取り組み(地域での実践活動, 日誌作成, 発表会を含む) 60%, 中間レポート10%, 期末レポート30%			
教科書・参考書等 最初の授業時に紹介する。			
オフィスアワー 水曜日12:00-13:00(平研究室: 教育3号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 学外で活動を行うので, 社会の基本ルールを十分に守ること。受講には, 学研災および学研賠への加入が求められる。また, 科目の性格上, 受講希望者数が各教員プロジェクトの受け入れ人数の合計を上回った場合は, 抽選を行う。			

ナンバリングコード B2THC-cdeG-10-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000809) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域での防犯を考える Crime Prevention Project	科目区分 主題科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 cdeG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 大久保 智生, 西本 佳代, 吉井 匡	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + フィールドワークおよびそのまとめ90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 大学生が巻き込まれる犯罪や香川県で多い犯罪の防犯活動への参加を通して、効果的な防犯対策を考え、提案し、地域での防犯を実践的に学ぶ。具体的には、地域での危険箇所を点検するためのフィールドワークを行い、防犯マップを作成する。大学生が最も巻き込まれる自転車盗に関する駐輪場でのフィールドワークを行い、自転車盗の効果的な対策を考え、提案する。また、高齢者に関わる犯罪の効果的な対策を考え、提案する。			
授業の目的 地域の防犯活動に参加した上で、実施可能な防犯対策を提案し、効果的な地域での防犯活動を理解することを目的とする。さらに、授業終了時には、地域での防犯活動に関心（共通教育スタンダードにおける「地域に関する関心と理解力」に対応）を持ち、安全・安心な地域づくりを担う人材を養成することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
地域の防犯活動に参加することにより、その価値や意義について説明できる 地域の防犯活動に参加することにより、その課題について、説明できる 地域の防犯活動に参加することにより、効果的な防犯対策を提案することできる			
成績評価の方法と基準 講義及びフィールドワークへの参加、レポートにより総合的に評価			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
(1) ガイダンス (2) 香川県の犯罪情勢に関するゲスト講師講義：警察による講義 (3) 駐輪場でのフィールドワーク (4) フィールドワークのまとめと自転車の窃盗対策の提案および専門機関からのコメント (5) 地域での防犯対策に関するゲスト講師講義：防犯協会連合会、弁護士による講義 (6) 防犯マップ作成に関するゲスト講師講義：防犯マップ作成を専門とした犯罪心理学者による講義 (7) 防犯マップ作成のための地域でのフィールドワーク (8) フィールドワークのまとめと防犯マップの提案および専門機関からのコメント (9) 店舗での犯罪対策に関する講義：万引き防止専門家による講義 (10) 認知症サポーター養成講座：高松市社会福祉協議会 (11) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (12) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (13) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (14) フィールドワークのまとめと高齢者の防犯対策の提案および専門機関からのコメント (15) 再犯防止に関するゲスト講師講義：法務教官による講義			
授業におけるフィールドワークの位置づけとしては、様々な活動を行っている専門家による講義を聴講した上で、フィールドワークを行うこととします。したがって、外部講師の講義を無断欠席した際には、フィールドワークの場に行けないことがあります。なお、フィールドワーク中の事故に備えるため、受講者は災害保険に必ず加入していただきます。			
教科書・参考書等 特になし。資料は適宜配布する。			
オフィスアワー 火曜日13:00～16:10 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室にて受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義を無断欠席すると、フィールドワークの場に行けないことがあるので、欠席の際は連絡をすること。フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」等の保険に加入しておくこと。			

ナンバリングコード B2THC-bceG-10-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000810) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 里海から地域の暮らしを考える To Think about our Way of Life through Learning "Satoumi"	科目区分 主題科目	時間割 前期金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 bceG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 清國 祐二, 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義120分×3回 + 演習90分×8回 + フィールドワーク (2～4時間) ×4日 + 自学自習			
授業の概要 古 (いにしえ) の豊かな暮らしを支えてきた瀬戸内海の多様な資源は、工業化による高度経済成長期に大きなダメージを受けた。公害が社会問題となり、環境への国民的関心が高まるとともに、環境保全が国家的課題へ位置づけられることとなった。今後は、広く地球環境の持続可能性確保に重点を置いて設定されたSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) が行動指針となってくるようである。そもそも環境問題は、世界的規模の問題を地域規模の行動によって解決しようとするものである。香川県において里海を学び、フィールドで実際に体験し、それらを題材に未来への責任ある議論を行い、行動し、評価する、一連のプロセスは世界の流れからも理に叶った取組である。			
授業の目的 講義で基本的な知識を習得し、フィールドワークで具体的な地域課題を認識し、ワークショップで課題解決に向けた具体的な方策を提案し、そのうちのいくつかを実践に結び、その成果と課題をまとめる力を身に付けることを目的とする。さらに、授業終了時には、環境問題のみならず、地域のあらゆる課題に関心を持ち、その解決に向けて具体的な提案ができる人材を養成することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
講義とフィールドワークに参加することにより、環境保全の価値や意義について説明できる 講義とフィールドワークに参加することにより、グローバルな課題についても説明できる 講義とフィールドワークに参加することにより、具体的な行動改善について提案できる			
成績評価の方法と基準 授業及びフィールドワークへの参加、レポートにより総合的に評価			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ガイダンス～本授業の目的～ (4月12日10:30～12:00) 第2回 【講義】「里海」を学ぶことの意味を考える (4月19日10:30～12:00) 第3回 【WS】「里海」の現状と課題を整理する (4月26日10:30～12:00) 第4回 【講義】森と海のつながり (5月17日(金)18:30～20:30) 第5回 【講義】川と海のつながり (5月24日(金)18:30～20:30) 第6回 【FW】海の生き物観察講座 (5月26日(日)16:00～18:00) 第7回 【講義】藻場造成と里海づくり (5月31日(金)18:30～20:30) 第8回 【WS】体験の振り返りとプログラム改善のためのワークショップ (6月7日(金)10:30～12:00) 第9回 【実習】里海の恵み料理教室 (6月23日(土)10:00～13:00) 第10回 【WS】体験の振り返りとプログラム改善のためのワークショップ (6月28日(金)10:30～12:00) 第11回 【FW】里海風景の撮影ツアー (7月20日(土)13:00～16:00) 第12回 【FW】海の生き物観察力向上講座 (7月21日(日)9:00～12:00) 第13回 【WS】体験の振り返りとプログラム改善のためのワークショップ (7月28日(金)10:30～12:00) 第14回 【FW】ウミホタル観察講座 (8月10日(土)あるいは17日(土)18:30～20:30) 第15回 【講義・演習】プレゼンテーション技法 (日時未定) 第16回 発表会 (日時未定) *FWはフィールドワーク (現地実習) を指す。 *WSはワークショップ (教室での参加・体験型学習) を指す。 なお、これらの学習の大半は時間割以外に設定されているため、予め日時を確認しておくこと。 フィールドワークには参加費が必要なもの、交通費がかかるものがあるので確認しておくこと。			
教科書・参考書等 特になし、資料は適宜配布する。			
オフィスアワー 木曜日と金曜日の12:00～13:00 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室 (研究交流棟6階) にて受け付ける。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。

フィールドワークのいくつかには実費（自己負担）のかかるものがあります。

科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。

受講には、学研災および学研賠への加入が求められる。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-10-Ef1 授業科目名 (時間割コード: 000811) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域をデザインする design the region	科目区分 主題科目	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Ef	単位数 1	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回程度＋実習(22.5時間以上)＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 自治体と連携し、地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践(地域をデザインする)するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高める(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)ことができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につく。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「地方と東京圏の大学生対流促進事業～うまげなかかわ感じてみまい!うどん県住みます学生プロジェクト～」と連携して行います。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 【授業計画】 ＜講義＞ ①ガイダンスおよび対象地域の活動内容の紹介(1回) ②③④⑤対象地域についての学修(4回) ②デザイン思考・フィールドワークの視点について プロジェクトを進めていくうえで必要なデザイン思考・フィールドワークの視点について学ぶ。 ③自治体職員による地域づくりに関する講話 自治体職員をお招きして自治体が策定している総合戦略や人口ビジョンについて学ぶ。 ④対象地域で活動および移住・起業している方からの講話 対象地域で活動および移住・起業している方を招き、きっかけや対象地域の魅力について学ぶ。 ⑤対象地域を研究対象としている方の講話 対象地域を研究対象としている方を招き、対象地域における課題や資源について学ぶ。 ⑭活動報告会のための学修(1回) 活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。 ＜プロジェクト(実習)＞ ⑥～⑬ 現地の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流、防災などの地域をデザインするための準備に取り組む。 ⑥⑦⑧ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りやアイデア出しおよびディスカッションを行う。 ⑨⑩⑪⑫⑬ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。			
※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。 受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をするこ			

となどが求められる。(自学自習)

<活動報告会>

⑮活動報告会

自治体職員・関係者を招いて活動報告会を行う。

<注意事項>

・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。
・参加費用（2万円程度）が別途必要となる。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日4時限 幸町北キャンパス研究交流棟6階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-10-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000812) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) コミュニティデザイン入門 Introduction to Community Design	科目区分 主題科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 長尾 敦史	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクト 地域インターンシップ	
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×5回程度＋実習（45時間以上）＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 コミュニティデザインの手法に関する基礎的な技法を学ぶ。学んだ技法を地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高める（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ことができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につく。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 授業は、講義と実習に分かれて行う。			
【授業計画】			
＜講義＞ ①ガイダンスおよびコミュニティデザインに関する事例紹介（1回） ②③コミュニティデザインに関する学修（2回） ②ワークショップ技法についてその1（ブレインストーミング、親和図法、シナリオグラフなど） ③ワークショップ技法についてその2（ワールドカフェ、マトリクス法など） ④⑤フィールドワークの仕方（2回） ④フィールドワークのために必要な基礎知識や道具について ⑤フィールドワークにおける技法について（参与観察、インタビュー）			
＜プロジェクト（実習）＞ ⑥～⑬ コミュニティデザインの実践 住民主体のまちづくりやその実行について、地域のコミュニティ協議会に参加しながら、コミュニティ事業についての企画・実践を行う。 ⑥⑦ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた情報収集・調査設計を行う。 ⑧⑨ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画づくりを行う。 ⑩⑪⑫⑬ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。 ※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。			
実習やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。 夏期休暇期間中も活動を行う。			

<活動報告会>

⑮活動報告会（2020年1月を予定しています）
各協議会にて活動報告会を行う。

<注意事項>

フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日2限 幸町北キャンパス研究交流棟6階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-10-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000813) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) コミュニティデザイン実習 Field Practice on Community Design	科目区分 主題科目	時間割 後期木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecaG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ、コミュニティデザイン入門		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×4回程度＋実習（45時間以上）＋活動報告会＋自学自習			
授業の概要 コミュニティデザインの手法を用いて、自治体と連携し、地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高める（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）ことができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につく			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度（積極性など）・参加内容（取り組み内容）、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 授業は、講義と実習に分かれて行う。			
【授業計画】			
＜講義＞ ①ガイダンスおよびプロジェクト対象地域の活動内容の紹介（1回） ②③プロジェクト対象地域についての学修（2回） ②ワークショップ技法について プロジェクトを進めていくうえで必要なワークショップ技法について学ぶ。 ③自治体職員による地域づくりに関する講話 自治体職員をお招きして自治体が策定している総合戦略や人口ビジョンについて学ぶ。 ④活動報告会のための学修（1回） 主に活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。			
＜プロジェクト（実習）＞ ④～⑬ コミュニティデザインの実践 住民主体のまちづくりやその実行について、地域のコミュニティ協議会に参加しながら、コミュニティ事業についての企画・実践を行う。 ④⑤⑥ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りを行う。 ⑦⑧ 情報発信の仕方について実践活動を行う。具体的には、フィールド実習で得た地域情報をどのように情報を加工して情報発信していくかを目的にミニ情報誌づくりやラジオ番組づくりについて学ぶ。 ⑨⑩⑪⑫⑬ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。			
※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。 実習やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。			

<活動報告会>

⑮活動報告会（2020年1月を予定しています）
各協議会にて活動報告会を行う。

<注意事項>

フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日2限 幸町北キャンパス研究交流棟6階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる

ナンバリングコード B2THC-ecxG-10-Lf2 授業科目名 (時間割コード：000814) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 Setouchi Triennale and the Problems of Minorities	科目区分 主題科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2THC	DP・提供部局 ecxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×6回、フィールドワーク90分×8回、大島青松園でのこえび隊活動36時間以上、発表90分×1回、自学自習			
授業の概要 授業ではまず、ハンセン病者に対する隔離政策、ハンセン病者のライフヒストリー、フィールドワークの方法を個人ワークとグループワークを行いながら学びます。つぎに、瀬戸内国際芸術祭の舞台のひとつになっている大島青松園（香川県高松市庵治町の離島）で、フィールドワークと瀬戸内国際芸術祭サポーターこえび隊活動を通して、大島青松園の将来に関わる課題を発見・探求し、それらの課題を解決するための方策について考察します。			
授業の目的 現代社会では、ヒト・モノ・カネ・情報等が国境を越えてグローバルに移動していますが、排除や差別を伴った社会的分断も引き起こされています。そこで授業では、排除や差別の問題だけでなく、多様な人と人あるいは場所との共生のあり方を考察するための事例として、ハンセン病問題について学びます。 授業の目的は、ハンセン病問題を理解し、多様な視点から大島青松園の将来に関わる課題を発見し、それらの課題を解決するための方策を示すことができるようになることです。（共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」と「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。さらに、ハンセン病問題について考え続ける必要がある理由について、考察できるようになることも目的です（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ハンセン病問題について説明することができる。 2. 大島青松園内の人々が、大島青松園の将来についてどのように考えているかを説明することができる。 3. 大島青松園外の人々、特に瀬戸内国際芸術祭に関わる人々が、大島青松園の将来についてどのように考えているかを説明することができる。 4. 大島青松園の将来に関わる課題を発見・探求し、それらの課題に対して具体的な解決策を示すことができる。 5. ハンセン病問題を考え続ける意義について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 ・大島青松園でのフィールドワーク①に関するレポート 20%（到達目標1～2に対応） ・大島青松園でのフィールドワーク②に関するレポート 20%（到達目標1, 3に対応） ・発表 30%（到達目標1～4に対応） ・最終レポート 30%（到達目標1～5に対応）			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 授業は、講義、グループワーク、フィールドワーク、大島青松園でのこえび隊活動、発表、そして自学自習によって構成されています。			
【授業計画】 〈講義〉 第1回 ガイダンス 〈グループワーク〉 第2回 ハンセン病者に対する隔離政策について 第3回 ハンセン病者のライフヒストリーについて 第4回 フィールドワークについて 第9回 大島青松園でのフィールドワーク①のまとめ 第14回 大島青松園でのフィールドワーク②のまとめ 〈フィールドワーク〉 第5～8回 大島青松園でのフィールドワーク① ・入所者の方による講演 ・大島青松園職員の方によるガイドツアー ・学芸員の方による社会交流会館に関する説明			

第10～13回 大島青松園でのフィールドワーク②

- ・こえび隊の大島担当者による講演
- ・瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーターこえび隊によるガイドツアー
- ・アート作品の鑑賞

〈大島青松園でのこえび隊活動〉

- ・こえび隊への登録方法と大島青松園でのこえび隊活動の仕方は、第1回のガイダンスで説明します。
- ・大島青松園でのこえび隊活動は、36時間以上（約6回以上・研修時間含む）行わなければなりません。

〈発表〉

第15回 発表 課題：大島青松園の将来に関わる課題の解決策

【自学自習のためのアドバイス】

- ・第2～4回の授業前に、予習で教科書の指定部分を読んでください。各回の指定部分やそれらの読み方については、第1回のガイダンスで説明します。
- ・大島青松園でのこえび隊活動については、担当教員（小坂有資）とこえび隊事務局と相談しながら計画を立てて活動に参加してください。
- ・「成績評価の方法と基準」に記載しているレポートと発表の準備は、自学自習で行ってください。
- ・授業中にハンセン病に関連する文献や映像等を紹介するので、それらを読んだり、みたりしてください。

教科書・参考書等

- ・教科書：蘭由岐子（2017）『「病いの経験」を聞き取る〔新版〕：ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院．1944円 ※教科書のISBN-13は、978-4865000641です。生活書院の〔新版〕を購入してください。
- ・参考書等：授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 水曜日12時～14時 小坂有資研究室（幸町北5号館5階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・教科書の購入は必須です。第2回の授業から教科書を持参してください。
- ・学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。
- ・科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。
- ・フィールドワーク等を行うため、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」等の保険に加入しておいてください。